

EdTech 導入補助金2022

令和3年度補正 学びと社会の連携促進事業
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

効果報告レポート

【事業者名】

Institution for a Global Society株式会社

【ツール名】

GROW Academy

e-Spire

【ツールの機能分類】

発展的な学び

デジタル教材 (英語)

2023年2月





豊かな探究を実現し、生徒の“生きるための力”を育む

コンピテンシー・ベースの教育を実現する動画学習コンテンツ。STEAM教育を実現するためのシミュレータ型コンテンツも搭載。Society5.0時代に生きる人材を育成する学校教育の実現に貢献します。

コンピテンシーを伸ばすためのフレームワーク（思考法）に特化

表現力や創造性、批判的思考力などのコンピテンシーを「社会のニーズに即した形で」高めるために有用なフレームワークを多数習得できます。

カリキュラムや生徒の習熟度などに応じて柔軟に利用可能

1コマの授業にも数回にわたる指導にも対応。対面・オンライン問わず授業用素材としてはもちろん、自学習用素材としての利用も可能です。

充実した指導用素材によってさまざまなシーンですぐに活用可能

各動画には指導マニュアルとワークシートを完備。コンピテンシー・ベースの教育を実現するための教材研究にも活用することが可能です。

探究活動に関わるさまざまな課題の解決＝フレームワークの習得

探究を通して身に付けさせるべき資質・能力を育むだけでなく、探究やPBL（課題解決型学習）に関わる課題に応じたフレームワークを身に付けさせることで、各活動の効果と価値を高めることが可能です。

コンピテンシー	動画タイトル			
思考力	ゲーム理論	ベイズ統計	フェルミ推定	抽象化・具体化
表現力	五感表現	レトリック	交渉力	プロトタイプ
判断力	期待値	ディシジョンツリー	相関・因果	情報収集力

▲育成・能力別動画タイトル（一部抜粋）

GROW Academy
動画ラインナップ



「理数探究」に準拠したSTEAM教育コンテンツも利用可能

地域に貢献する会社を起業する STEAM 型のシミュレーション・コンテンツも利用可能。起業家に必要な知識をワークを通して学べ、答えのない問いを解決するために必要な資質・能力を習得することができます。



■ 年間利用料（ご採用校は学校内に限り人数に上限なく自由にお使いいただけます）

スタンダードプラン	フレームワーク動画24タイトル+STEAMコンテンツ+STEAMシミュレータ	2,500,000円 (税別)
探究実現パッケージ	フレームワーク動画14タイトル+STEAMコンテンツ+STEAMシミュレータ	1,650,000円 (税別)
思考力養成パッケージ	フレームワーク動画10タイトル+STEAMコンテンツ+STEAMシミュレータ	1,200,000円 (税別)
探究ミニパッケージ	フレームワーク動画5タイトル	400,000円 (税別)

入門～海外進学レベルの豊富な問題を英語力とペースに合わせて学習可能

Inst. Global Society

中学・高校生向けeラーニング・システム

確かな英語力と「自ら学び続ける力」を育む

VOCABULARY、READING、LISTENING、WRITINGの4つのユニットで構成されたオンライン英語学習プラットフォーム。ユニットごとに英語習熟度や学習ペースに合わせて自由に取り組むことが可能です。

入門・初級からネイティブ・レベルまで幅広い難易度の問題を提供

各ユニットのレベルは75段階。従来の紙教材では難しいタイムプレッシャーなどの負荷を掛けたトレーニングで英語力を効果的に高めます。

生徒の学習モチベーションを高めることで自学の習慣化を支援

学習の進捗に応じてバッジを付与。ゲーミフィケーション効果によって達成可能な短・中期的な目標設定を促し、自学習を習慣化させます。

「生徒のOUTPUTの機会増加」と「先生の負担軽減」を両立

AIによる英作文の自動採点システムを採用。英語をOUTPUTする機会を増やしながらかも添削・採点に関わる先生の負担を大幅に軽減します。

VOCABULARY

エビングハウスの忘却曲線のアルゴリズムによって出題される問題を解くことで超基本単語の復習をしながら難単語まで効果的に習得することができます。

収録単語数	7411語
-------	-------

LISTENING

リスニング力を鍛えるために有効なディクテーションやシャドーイングなどといったトレーニングも効果的に行うことができます。

収録問題数	312題
-------	------

READING



哲学・文学・歴史・科学など豊富なテーマの長文を収録。正確さだけでなく、読む速さを意識したリーディングの習慣が身に付きます。

リーディング・スピードも自動計算して表示

収録問題数	294題
-------	------

WRITING

日常から入試頻出テーマまで幅広くカバー。AIの修正提案機能で、ライティング力の向上を強力にサポートします。



スペル、文法、語数などの項目で誤りを瞬時に指摘

収録問題数	107題
-------	------

■ 利用料 (1カ月単位での利用も可能。プランは生徒ごとに自由にお選びいただけます)

VOCABULARY+READING, LISTENING, WRITINGのうち1ユニット	1名 1,300円(税別) /月
VOCABULARY + READING + LISTENING + WRITING	1名 2,500円(税別) /月
VOCABULARY + READING + LISTENING + WRITING (自動採点+月4回の外部採点)	1名 3,500円(税別) /月
WRITING (自動採点のみ)	1名 500円(税別) /月
WRITING (自動採点+月4回の外部採点)	1名 1,500円(税別) /月

多くの学校・先生方が抱える以下の悩み・課題を「GROW Academy」によって解消する。



探究が表面的な活動にとどまり活動がなかなか深まらない

探究のテーマや思考のきっかけではなく、生徒の思考を深め、豊かな発表活動を実現するために必要なフレームワークを多数提供。

目指す課題解決

課題を一から設定し、他者と協働しながら解決に導く有用な「型」を与え、課題解決の過程で必要となる資質・能力も同時に高める。



コンピテンシーを伸ばすための指導がイメージできない

伸ばしたいコンピテンシーから扱う動画の選定も可能。動画には付属の指導案に加え授業用スライドとTips付きワークシートも完備。

目指す課題解決

教材研究の時間を最小限にとどめコンピテンシー・ベースの教育と新学習指導要領の要請に対応した指導を負担なく実現させる。



引き続き学校行事等が制限される中で非認知能力が伸ばせない

新学習指導要領にも対応し、探究以外の教科指導でも活用可能。先生の介入なくオンラインでSTEAM教育を実現するコンテンツも実装。

目指す課題解決

不足する協働の機会を補填・充足させたうえで、オンライン授業でもコンピテンシーが成長することを先生・生徒双方に実感させる。

■ 学校等教育機関の抱える課題

多くの学校・先生方が抱える以下の悩み・課題を「e-Spire」によって解消する。



上位層に適切な
負荷を掛けられず力を
伸ばし切れていない

TOEFL®テストの構造に沿って設計。高難度の問題を多数収録し、TOEFL iBT®テスト 80点以上獲得に必要な英語学習環境を提供。

目指す課題解決

帰国生などネイティブ・レベルや高い学習モチベーションを持つ生徒に適切かつ必要な負荷を与え英語力のさらなる向上を支える。



アウトプット機会を
増やすにも物理的に
時間が取れない

AIによる自動採点を採用。添削や採点の負担を減らすだけでなくルーブリクス評価によって明確かつ統一的なフィードバックが可能。

目指す課題解決

英作文採点や添削に関わる先生の負担を増やすことなく生徒のOUTPUT機会を大幅に増やすことで英作文力の向上を支える。



自学習を上手く活用
したいが自学が習慣化
していな生徒が多い

ランキングやバッジ機能といったゲーミフィケーション効果で全ての生徒に達成可能な短・中期的な目標設定を促し自学を習慣化。

目指す課題解決

生徒の学習モチベーションを高めることで自学の習慣化に加え自学の質・量の向上を図り自学と授業の有機的な役割分担を実現する。

CASE 1 山梨英和高等学校：スポット活用で思考力と表現力を高めることに成功



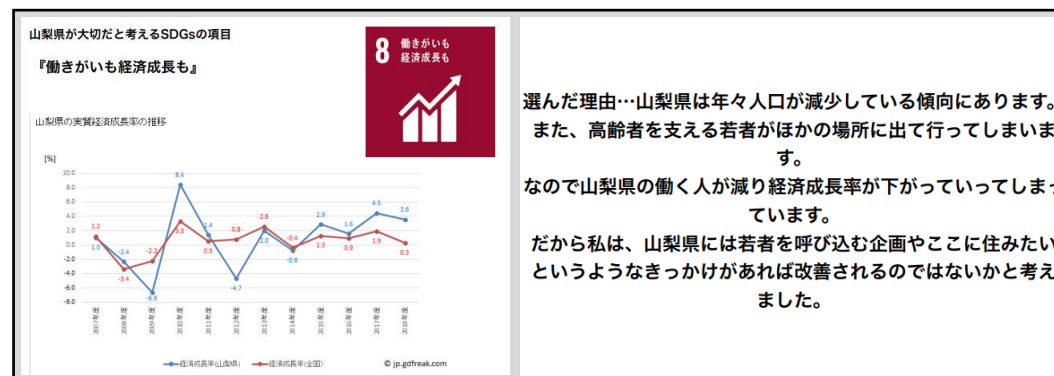
探究活動の深化

コンピテンシー育成

協働機会の創出

令和4年度実施の探究プログラムの開発にて、生徒の思考を深めるためのフレームワークを学ぶプログラムを検討していた。

- ・ 1・2学期の総合的な探究の時間の6コマ（全22コマ）で「GROW Academy」のフレームワーク動画をスポットで活用
- ・ 指導案もプログラムとマッチしたことからそのまま活用。授業準備と教材研究の時短に貢献



▲グループワークで生徒が作成したプレゼン資料

活用事例の概要

- 活用シーン
総合的な探究の時間
- 対象生徒
1・2年生
- 主な育成目的
表現力
論理的思考
課題設定
- 使用動画
システム思考
情報収集力
疑う力
五感表現
ディジョンツリー
Who am I

CASE 2 埼玉県立南稜高等学校：コンピテンシー・ベースのキャリア教育を実現



探究活動の深化

コンピテンシー育成

協働機会の創出

各生徒の潜在能力やコンピテンシーに応じたキャリア教育の必要性とともに
コロナ禍で他者との協働やコミュニケーション機会の低下を懸念していた。

- ・ 事前に学年で育成したいコンピテンシーを決め、対応するフレームワーク動画を選定
- ・ 学年団で連携しながら学習指導案とワークシートを活用することで、各クラスの状態に合わせながらも学年で足並みを揃えた探究型のキャリア教育を実現



動画を視聴した後、ワークシートを使いながら「ゲーム理論」の一つである囚人のジレンマを体験するワークを実施

活用事例の概要

- 活用シーン
キャリア教育
- 対象生徒
1年生
- 主な育成目的
自己理解・分析力
課題解決力
協働性
価値観
- 使用動画
気質
コンピテンシー
ゲーム理論
360度分析
Who am I

CASE 3 大成高等学校：学年混合で気付きと成長を促す短期集中型の探究プログラムを創出



探究活動の深化

コンピテンシー育成

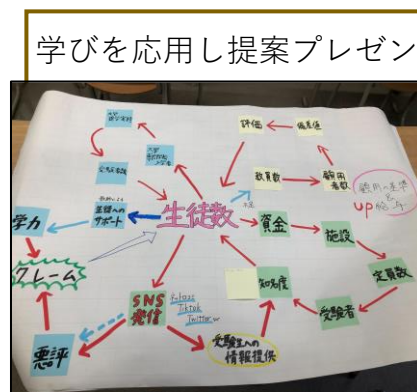
協働機会の創出

来年度の総合的な探究の時間のプログラム構築につながる形で、夏休みの補習期間で行う探究プログラムを模索していた。

- ・身近なテーマ設定、想定ストーリー、グループワークを前提に扱うフレームワークを抽出
- ・異学年少人数グループでフレームワークを学び、テーマの解決案をブラッシュアップ
- ・アウトプットへの責任感、中間発表での気付きと自己修正が大きな学びとなった



動画学習から
グループワークへ



活用事例の概要

- 活用シーン
夏休みの探究活動
- 対象生徒
1～3年生 希望者
- 育成目的
—
- 使用動画
情報収集
システム思考
相関・因果
因果ループ図
デザイン思考
フェルミ推定
ディジョンツリー
期待値
疑う力
五感表現

CASE 1 聖光学院高等学校：各生徒に最適な負荷を掛けた学習を実現。コーチングにも寄与



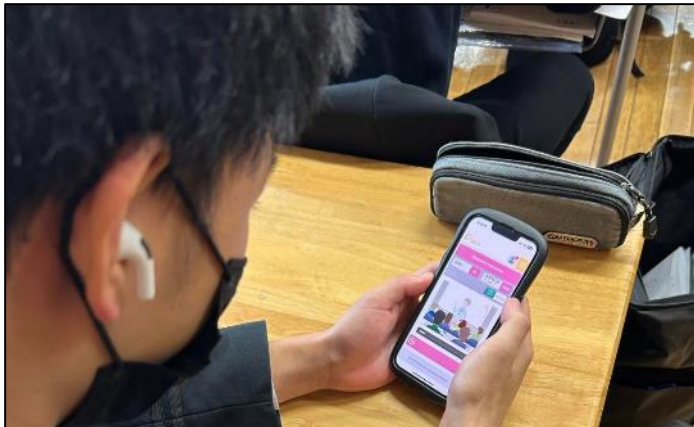
上位層への適切な負荷

OUTPUT時間の確保

英語自学習の促進

英語力の大きな差を埋め、多様な生徒の個々のニーズに応じた学習が可能になるアダプティブな英語学習コンテンツを探していた。

- ・ 生徒の英語力に合わせてレベルを個別に設定。自学習（夏期休暇中の自主課題含む）で活用
- ・ 英語苦手層へのフォローが充実したことで、多数を占める上位層に合わせた授業が可能に
- ・ 学習ログの定期的な確認によって、英語学習におけるコーチングのポイントが明確に



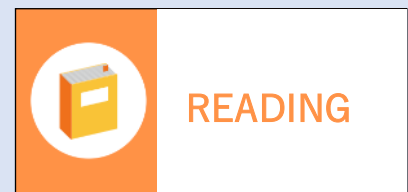
管理画面で活発に取り組む生徒の他、英語が苦手な生徒の習熟状況やつまづきのポイントを確認（写真右）

活用事例の概要

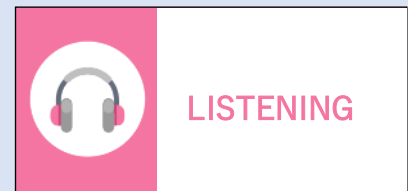
- 活用シーン
自学習
- 対象生徒
1～3年生
- 使用ユニット



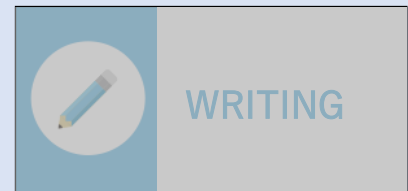
VOCABULARY



READING



LISTENING



WRITING

CASE 2 広島三育学院高等学校：アナログ教材では困難な個別に最適化された自学習を実現



上位層への適切な負荷

OUTPUT時間の確保

英語自学習の促進

生徒の興味や英語レベルに合わせた教材の選定が困難。あらゆる生徒が授業と自学で集中して活用できる英語学習コンテンツを求めている。

- ・ 授業のウォームアップとして冒頭10分間、各自でVOCABULARYとREADINGユニットを利用
- ・ 生徒レベルに合わせた長文で、教材準備の手間の軽減と英語学習のルーティン化に成功
- ・ 授業開始前から取り組む生徒や、バッジの獲得をモチベーションに自学習で活用する生徒も

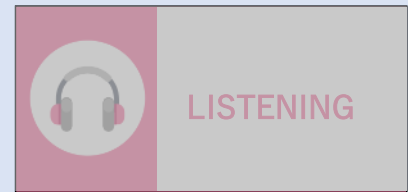
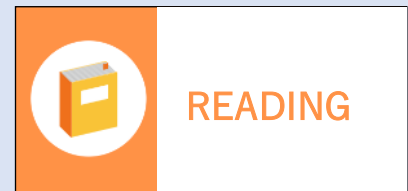


授業の冒頭、自身の英語力に応じたREADING問題に取り組む様子。教室前面では、英検®各級と学習ユニットのレベル対応表を投影（写真左）

自主的にWRITING問題に取り組む生徒も（写真右）

活用事例の概要

- 活用シーン
授業、自学習
- 対象生徒
1～3年生
- 使用ユニット



CASE 3 東京都立調布南高等学校：短期的な目標設定で自学が促進。観点別評価の参考にも



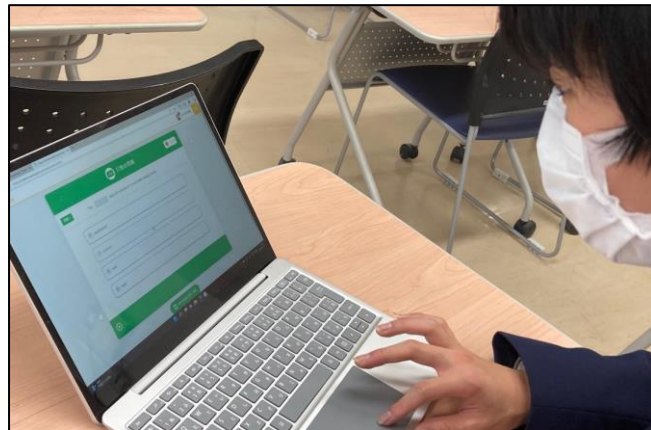
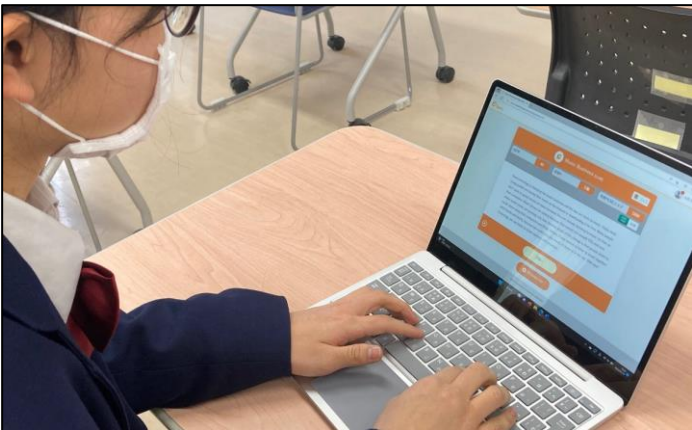
上位層への適切な負荷

OUTPUT時間の確保

英語自学習の促進

ICT端末1人1台の実現を受け、インプットの増加と自学習の習慣付けを併せて早期に実現できるデジタル教材を検討していた。

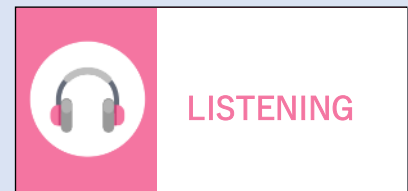
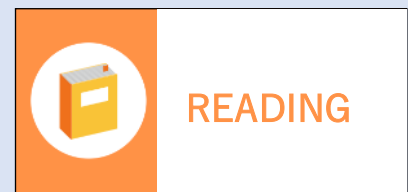
- ・ 自学習での取り組みをログで確認して「主体的に学びに向かう態度」の観点評価に加点
- ・ 具体的な短期目標と「進級テストのみでOK」など最低限のルールで学習意欲の向上を図る
- ・ ランキングUPやバッジ獲得をモチベーションに英語が得意でない生徒も自学の習慣化に成功



自学習での英語インプット量のUPを図る。デジタルならではの即時フィードバックもモチベーションの維持・向上に寄与

活用事例の概要

- 活用シーン
自学習
- 対象生徒
1年生
- 使用ユニット



CASE 4 山梨県立甲府第一高等学校：帯活動で負荷を掛けた効果的なトレーニングを実現



上位層への適切な負荷

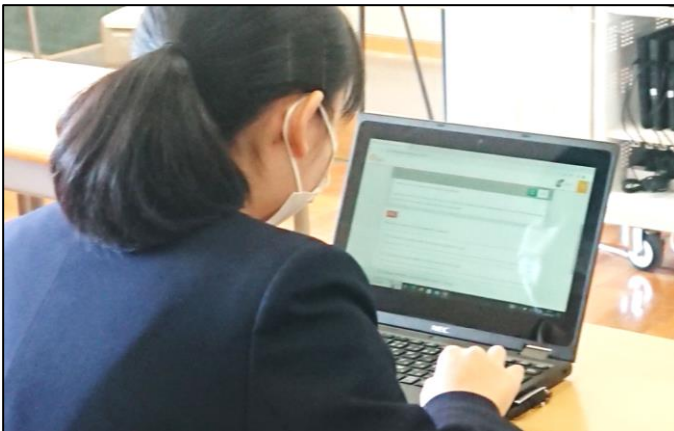
OUTPUT時間の確保

英語自学習の促進

長文演習の授業の冒頭5分で紙の教材で速読をさせ、読むスピード（wpm※）を測っていたが、教材準備・実施（wpmの計測・算出）の負担が大きかった。



- ・ 指導と学習の負担軽減だけでなくレベルに合わせたスピード設定で速読演習の効果が向上
- ・ 内容理解を問う問題の正答率とともにwpmもすぐに確認できるためモチベーションもUP
- ・ 英語力に合った問題に取り組めるため、英語が苦手な生徒や自学が得意でない生徒も活用

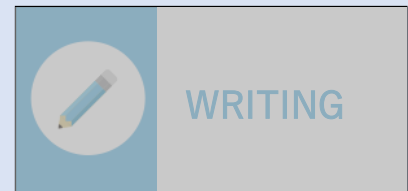
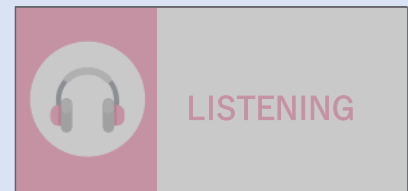
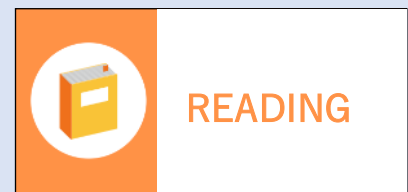


授業の帯活動で活用する様子

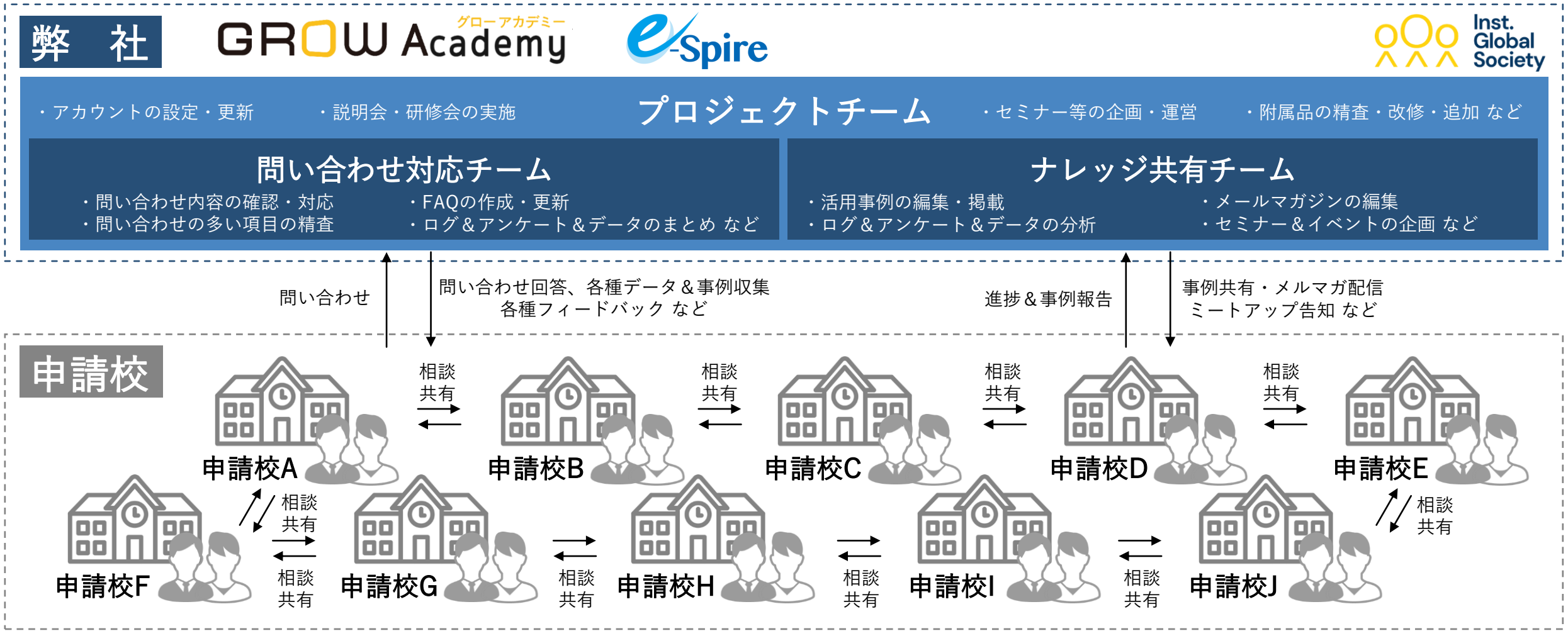
※wpm (words per minute) : 1分間で読むことのできる単語数

活用事例の概要

- 活用シーン
授業、自学習
- 対象生徒
3年生
- 使用ユニット



各申請校とのコミュニケーションを円滑に行うため、本補助事業専門のプロジェクトチームを編成。月1回メールマガジンを配信（EdTechツールの有効活用につながる情報含む）、同じような目的や課題を持つ申請校同士をマッチングすることで申請校のネットワークの構築を図った。



安定運用に向け、通常サポートに加えて申請校ごとに生徒および先生を対象とした導入説明会を実施。活用方法に関するレクチャーを行う他、特に申請校のニーズや課題をヒアリングしたうえで、「GROW Academy」は活用する動画、「e-Spire」は学習ユニットについてそれぞれ活用順や活用シーンの擦り合わせに注力した。

■ 生徒向け導入説明会



生徒向けの説明会ではコンピテンシーとフレームワークの重要性を解説。自学での取り組み方を説明する他、申請校からのリクエストに応じて模擬授業も実施。

■ 先生向け導入説明会



先生向けの説明会では主に探究と絡めた活用を提案。「Ai GROW」の受検結果から得られたエビデンスを基に育成能力を擦り合わせた申請校も多数。

■ 安定運用と有効活用に向けたセミナー



コンピテンシー育成事例の共有会を全国で対面実施（感染症対策に配慮して実施）。質疑応答やその後の交流・名刺交換など、先生同士の交流を促進。

■ 補助事業において実施したサポート内容

「e-Spire」申請校については受講記録レポートの配信を月に1回行った（各生徒の受講記録や提出済エッセイは管理画面から確認可能なため、通常はレポート配信を行っていない）。また、管理画面から確認可能な各生徒の受講記録や提出済エッセイについて、先生と一緒に画面上で確認をすることで、先生の管理画面活用を促した。

■ 受講記録レポート（クラスの受講記録）

今月のログイン回数	Vocabulary		Reading		Listening		Writing	
	レベル	問題数	レベル	問題数	レベル	問題数	レベル	問題数
22	24	879	1	0	5	6	1	0
19	3	97	1	0	1	0	1	0
12	1	55	22	27	12	12	1	2
8	1	39	2	1	2	3	1	0
7	1	6	2	2	1	0	1	0
6	4	124	1	1	1	0	1	0
6	1	22	1	0	4	3	1	0
6	1	11	8	14	6	6	1	2
6	1	8	2	1	1	0	1	0
6	1	7	1	0	1	10	1	0
5	2	60	4	30	7	37	1	0
5	1	13	2	2	2	1	1	0
5	1	10	13	12	41	49	1	0

▲初測の報告としてツール利用開始直後の学習ログも提供

生徒ごとに月のログイン回数・到達レベル・Unitごとの取り組んだ問題数、提出したエッセイの記録。ログイン回数や取り組んだ問題数が多い生徒の他、フォローが必要な生徒（前月からログイン回数が大きく減った生徒など）について、直接会話でのフォローを行った。

■ 受講記録レポート（個人の受講記録）



▲個人の受講記録は面談やコーチングの材料にも。観点別評価の参考にされる申請校もあった

全国92校（「GROW Academy」 67校、「e-Spire」 25校）からの申請を受け、本補助事業を実施した。

地域	学校名	区分	利用学年	利用生徒数	利用先生数
北海道地方	北海道湧別高等学校	公立	1,2,3	117	20
	札幌市立手稲東中学校	公立	1,2,3	529	42
	北海道雄武高等学校	公立	1,2,3	64	14
	函館白百合学園中学校	私立	1,2,3	59	20
	函館白百合学園高等学校	私立	1,2,3	277	50
東北地方	弘前学院聖愛高等学校	私立	1	39	3
関東地方	群馬県立大泉高等学校	公立	1,2,3	467	43
	埼玉県立大宮光陵高等学校	公立	2	341	17
	埼玉県立南稜高等学校	公立	1,2	720	80
	さいたま市立三室中学校	公立	1,2,3	864	68
	秩父市立高篠小学校	公立	4,5,6	113	7
	千葉県立千葉西高等学校	公立	3	315	17
	敬愛学園高等学校	私立	1,2,3	1,172	35
	日野市立日野第一中学校	公立	1,2,3	696	36
	東京学芸大学附属国際中等教育学校（中学部）	国立	2	110	6
	宝仙学園高等学校	私立	1	249	10
	ドルトン東京学園高等部	私立	1	134	15
	明星学園中学校	私立	2	149	7
	大成高等学校	私立	1,2	901	42
	公文国際学園高等部	私立	1,2	316	18
	宝仙学園中学高等学校 共学部理数インター	私立	1,2,3	644	10
	公文国際学園中等部	私立	1,2,3	528	27

地域	学校名	区分	利用学年	利用生徒数	利用先生数	
関東地方	自由ヶ丘学園高等学校	私立	1,2,3	588	60	
	ドルトン東京学園中等部	私立	1,2,3	309	15	
	桜丘中学校	私立	1,2,3	461	10	
	桜丘高等学校	私立	1,2,3	1122	20	
	聖ドミニコ学園中学校	私立	1,2,3	116	33	
	聖ドミニコ学園高等学校	私立	1,2,3	135	33	
	成立学園高等学校	私立	2,3	65	4	
	宝仙学園小学校	私立	4,5,6	91	10	
	東京創価小学校	私立	5,6	191	19	
	鎌倉市立第一中学校	公立	1,2,3	204	20	
	横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校	国立	1,2,3	434	28	
	湘南工科大学附属高等学校	私立	1	379	40	
	藤沢翔陵高等学校	私立	1,2	202	12	
	関東学院六浦高等学校	私立	1,2	200	17	
	武相高等学校	私立	1,2,3	783	74	
	中部地方	富山県立滑川高等学校	公立	1,2,3	192	10
		金沢高等学校	私立	1,2,3	1281	80
山梨英和中学校		私立	3	51	6	
山梨英和高等学校		私立	1,2	206	30	
清水国際高等学校		私立	1,2,3	437	45	
愛知県立岡崎北高等学校		公立	1	360	20	
三重県立松阪高等学校		公立	1,2	560	70	

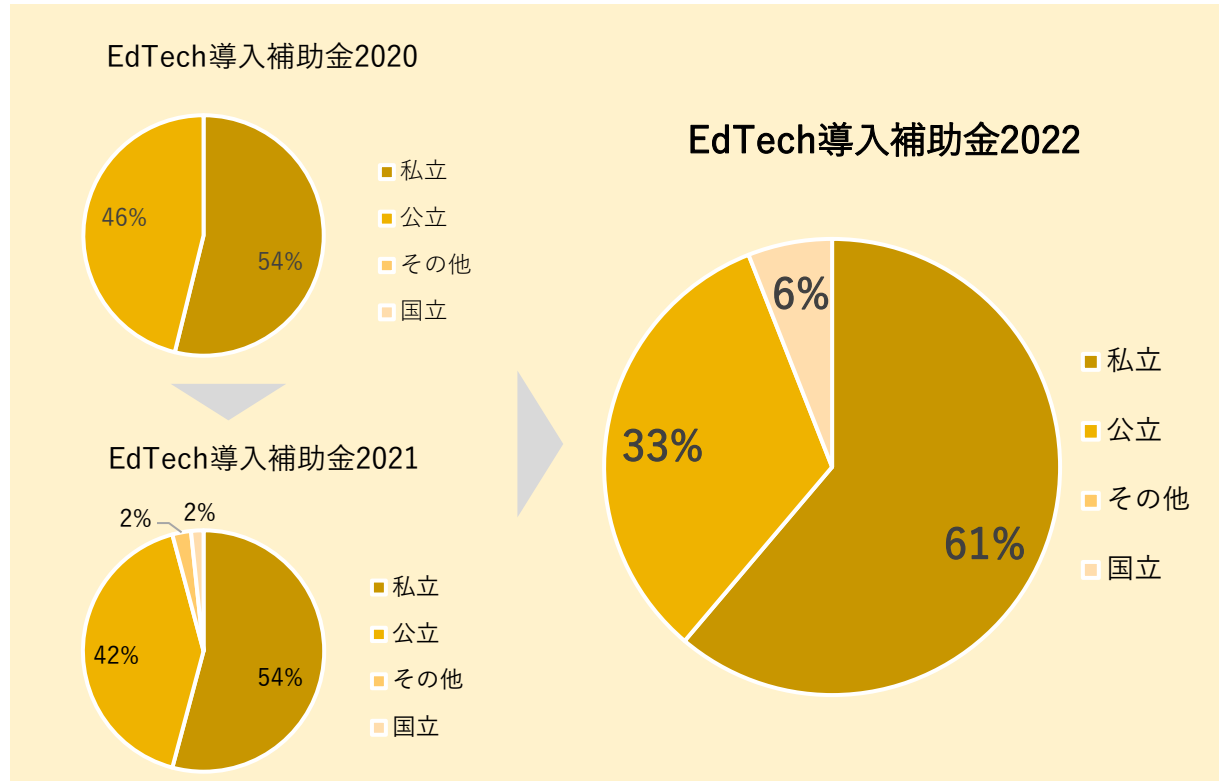
■ EdTech導入補助金2022における導入実績

地域	学校名	区分	利用学年	利用生徒数	利用先生数
中部地方	三重県立稲生高等学校	公立	1,2,3	550	45
	鈴鹿中等教育学校（前期課程）	私立	3	126	50
	鈴鹿中等教育学校（後期課程）	私立	4,5	233	50
近畿地方	京都市立葵小学校	公立	4,5,6	243	22
	東大阪大学敬愛高等学校	私立	1,2,3	658	40
	兵庫県立小野高等学校	公立	1,2	120	6
	兵庫教育大学附属中学校	国立	1,2,3	289	28
	神戸龍谷高等学校	私立	1,2	642	33
	奈良学園小学校	私立	4,5,6	174	20
	岡山市立芳泉中学校	公立	1,2,3	894	75
中国地方	明誠学院高等学校	私立	1,2	225	7
	福山市立城北中学校	公立	1,2,3	673	50
	広島大学附属福山高等学校	国立	1,2	406	63
	近畿大学附属広島高等学校 福山校	私立	1	241	12
	広島工業大学高等学校	私立	1	468	91
	福津市立津屋崎小学校	公立	4,5,6	495	25
九州・ 沖縄地方	明治学園高等学校	私立	1,2	325	20
	明治学園中学校	私立	2,3	303	30
	熊本市立千原台高等学校	公立	1,2	388	45
	ルーテル学院中学校	私立	1,2,3	247	9
	ルーテル学院高等学校	私立	1,2,3	1041	28
	鹿児島情報高等学校	私立	1,2	951	107

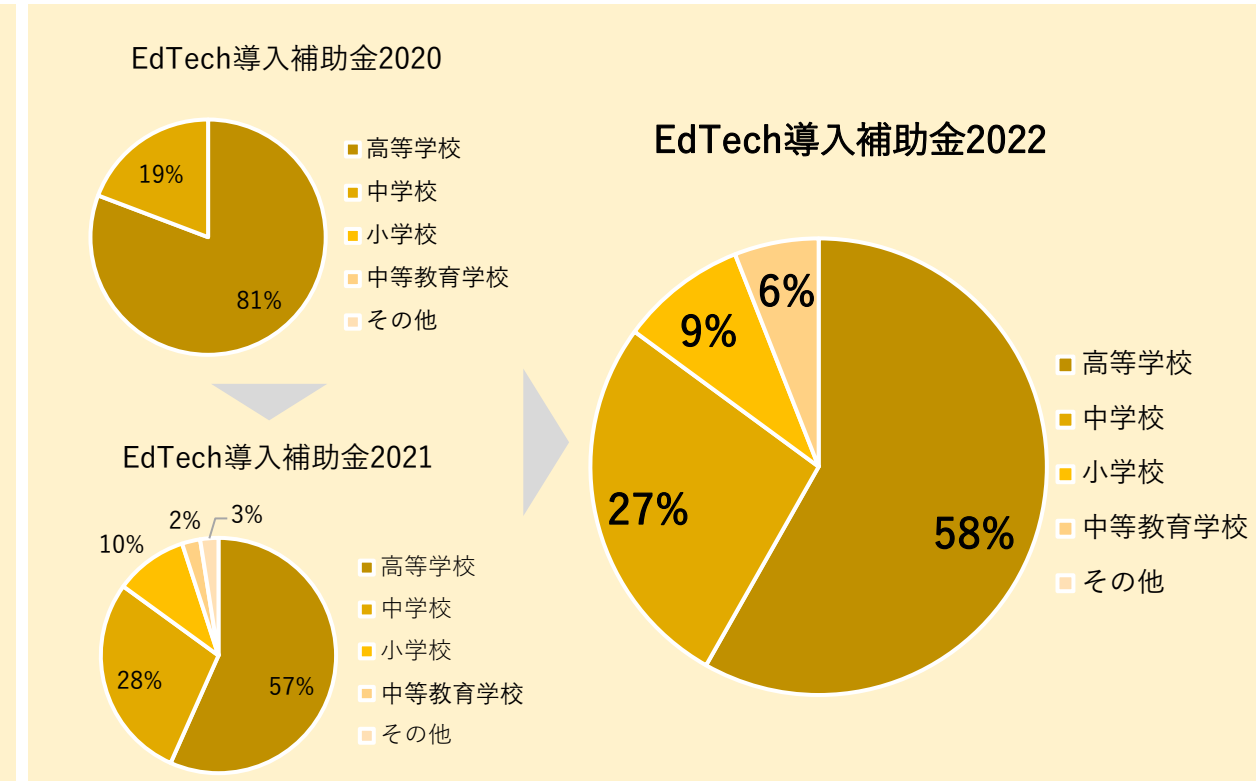
地域	学校名	区分	利用学年	利用生徒数	利用先生数
北海道地方	北海道帯広農業高等学校	公立	1,2,3	573	5
	札幌市立北白石中学校	公立	1,2,3	750	6
	北海道北見柏陽高等学校	公立	1,2,3	600	8
	北海道釧路湖陵高等学校	公立	1,2,3	695	55
	札幌創成高等学校	私立	1,2,3	917	90
関東地方	茨城県立水戸農業高等学校	公立	1,2,3	339	6
	千葉県立松戸国際高等学校	公立	1,2,3	991	17
	東京都立調布南高等学校	公立	1	240	3
	東京都立東大和南高等学校	公立	2	278	10
	聖光学院高等学校	私立	1,2,3	690	10
	聖光学院中学校	私立	1,2,3	695	10
中部地方	新潟県立新潟西高等学校	公立	1,2	558	10
	山梨県立甲府第一高等学校	公立	3	235	2
	長野県長野西高等学校	公立	2,3	240	5
	常葉大学附属橘高等学校	私立	1,2	856	8
	愛知県立西尾東高等学校	公立	2	310	3
	愛知県立刈谷北高等学校	公立	1,2,3	1079	14
	愛知県立西尾高等学校	公立	1,2,3	1077	17
	三重県立木本高等学校	公立	1,2,3	318	5
	大阪府立花園高等学校	公立	2	234	5
	兵庫県立須磨友が丘高等学校	公立	2,3	472	10
中国地方	広島三育学院高等学校	私立	1,2,3	139	6
	山口県立宇部工業高等学校	公立	1,2,3	430	4
四国地方	愛媛県立松山中央高等学校	公立	3	33	1
	愛媛県立伊予高等学校	公立	3	174	3

「GROW Academy」の申請校（67校）の区分は以下の通り。

■ 申請校区分別 1（設置区分）



■ 申請校区分別 2（学校区分）



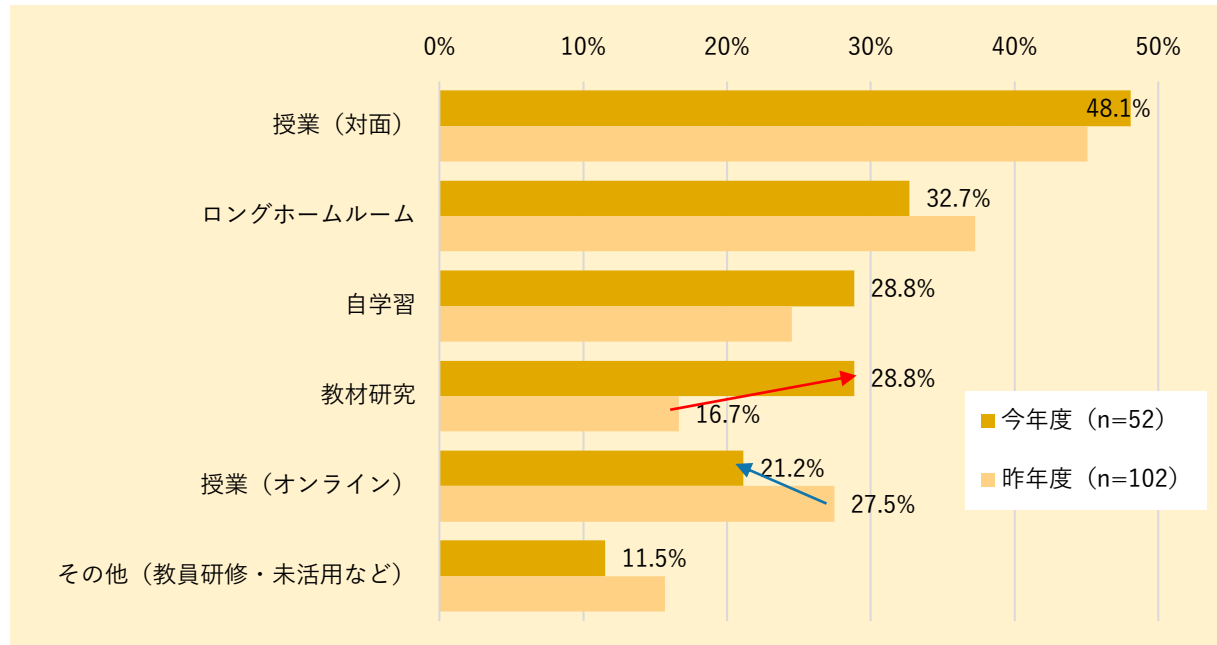
■ 設置区分の比率は私立がやや増加。また数は少ないが国立の申請校数が倍増（昨年度2校→今年度4校）。

■ 学校区分の比率の傾向は昨年度と同様で、小・中学校からの申請が増加した昨年の比率を保っている。

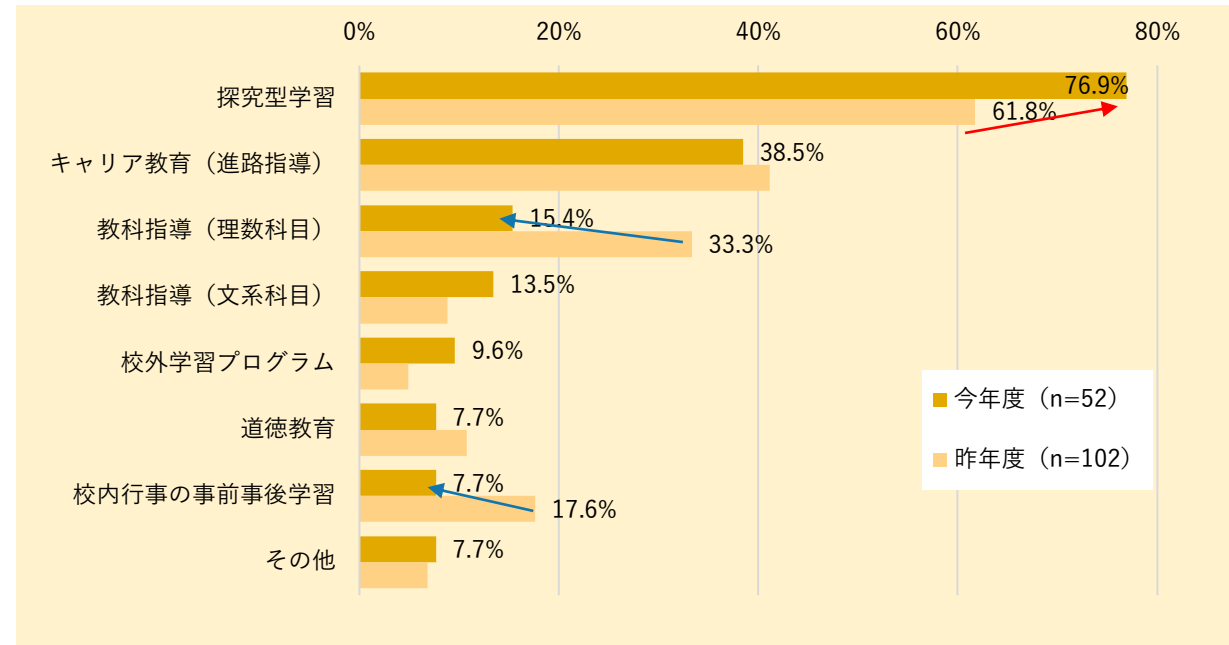
■ EdTechツールによる活用効果

申請校の先生方にご協力いただいた「GROW Academy」活用に関するアンケートの結果

■ 活用シーン（複数選択可）



■ 活用目的（複数回答可）

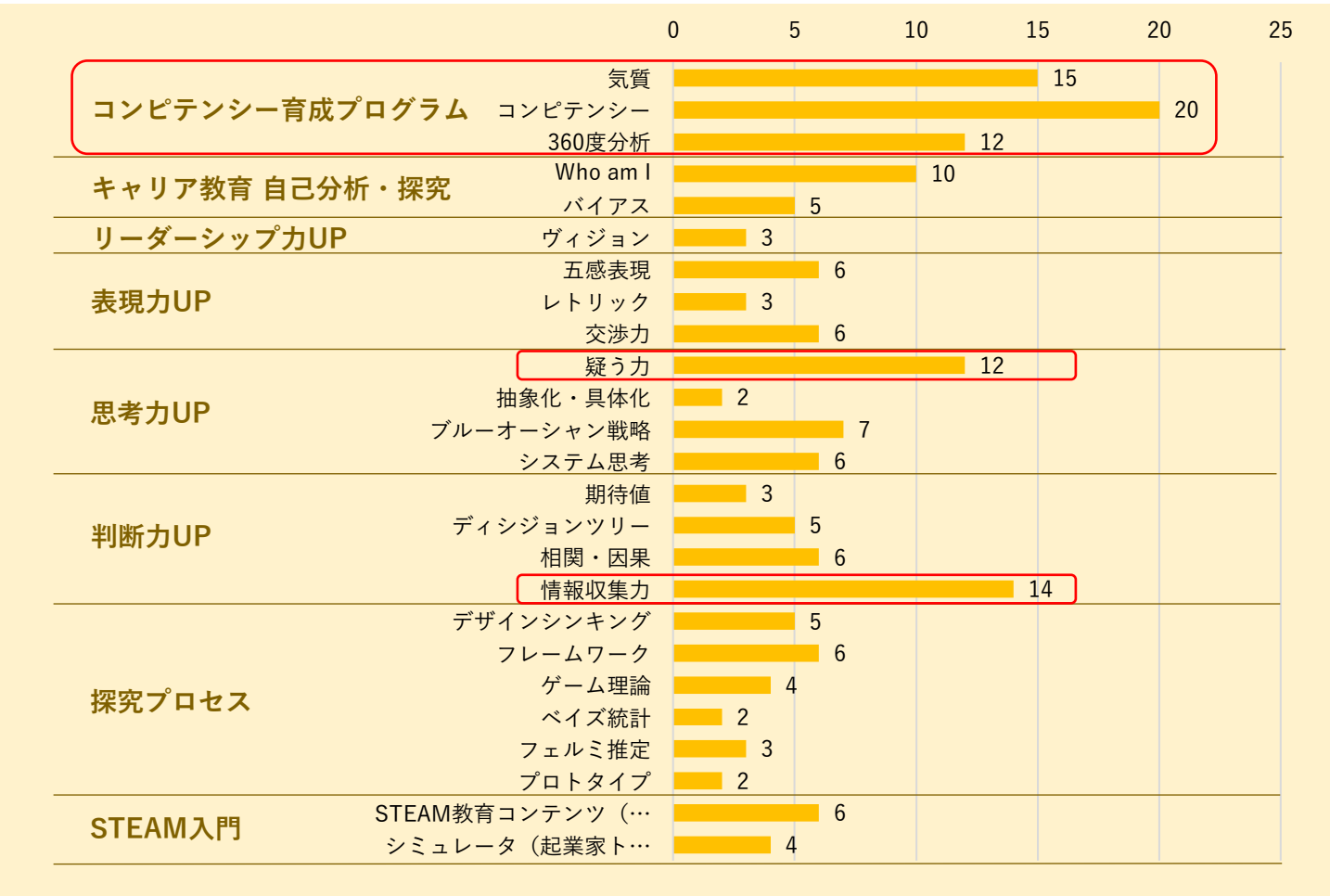


- 活用シーンは、昨年度と同様に対面授業とロングホームルームが上位を占めるが、教科指導を含む授業での活用割合が増加。
- 教材研究目的での利用が増（昨年度から12.2pt増）。コンピテンシー・ベースの教育に苦慮される先生が多いことが分かる。
- 昨年度と比べ、以前の体制に戻りつつある学校が多く、オンライン授業での活用は昨年から6.3pt減。
- 探究型学習（総合的な探究の時間を含む）での活用が昨年度より15.2pt増加。探究とその教材に課題感を持つことが分かる。
- 教科指導（理数科目）での活用は昨年度から17.9pt減。校内行事の事前事後学習での活用は10.0pt減となった。

■ EdTechツールによる活用効果

申請校の先生方にご協力いただいた「GROW Academy」活用に関するアンケートの結果

■活用した動画（複数選択可）



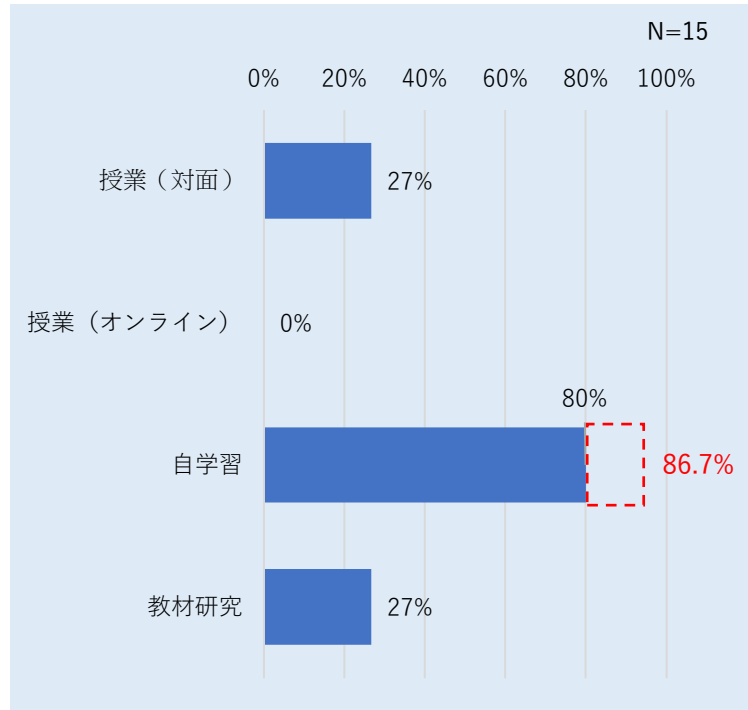
- コンピテンシー育成に関わる動画の利用率が高く、「生徒が自己理解を深める土台になる」（アンケート回答より）など関心の高さが伺える。
- 「疑う力」「情報収集力」も利用率が高い。アンケートでは「インターネットを利用した正しい情報収集力を身に付けさせるため」「探究を実施するに当たって必要な要素なので」という声があった。
- 動画選定の視点として「探究活動や身に付けたい資質・能力との関連が深かったため」「探究学習や行事を充実させるために使えそう」などが挙げられた。
- 教材研究や教員研修で動画を用い「探究学習、キャリア教育、STEAM教育を進めるうえで教員が学ぶため」に活用するケースもあった。

出展：「EdTech導入補助金2022」に関するアンケート（① 対象：「GROW Academy」申請校の先生 ② 有効回答数：52件（回答率 77.6%） ③ 実施時期：2022年12月20日～2022年12月31日 ④ 実施方法：Google Forms）

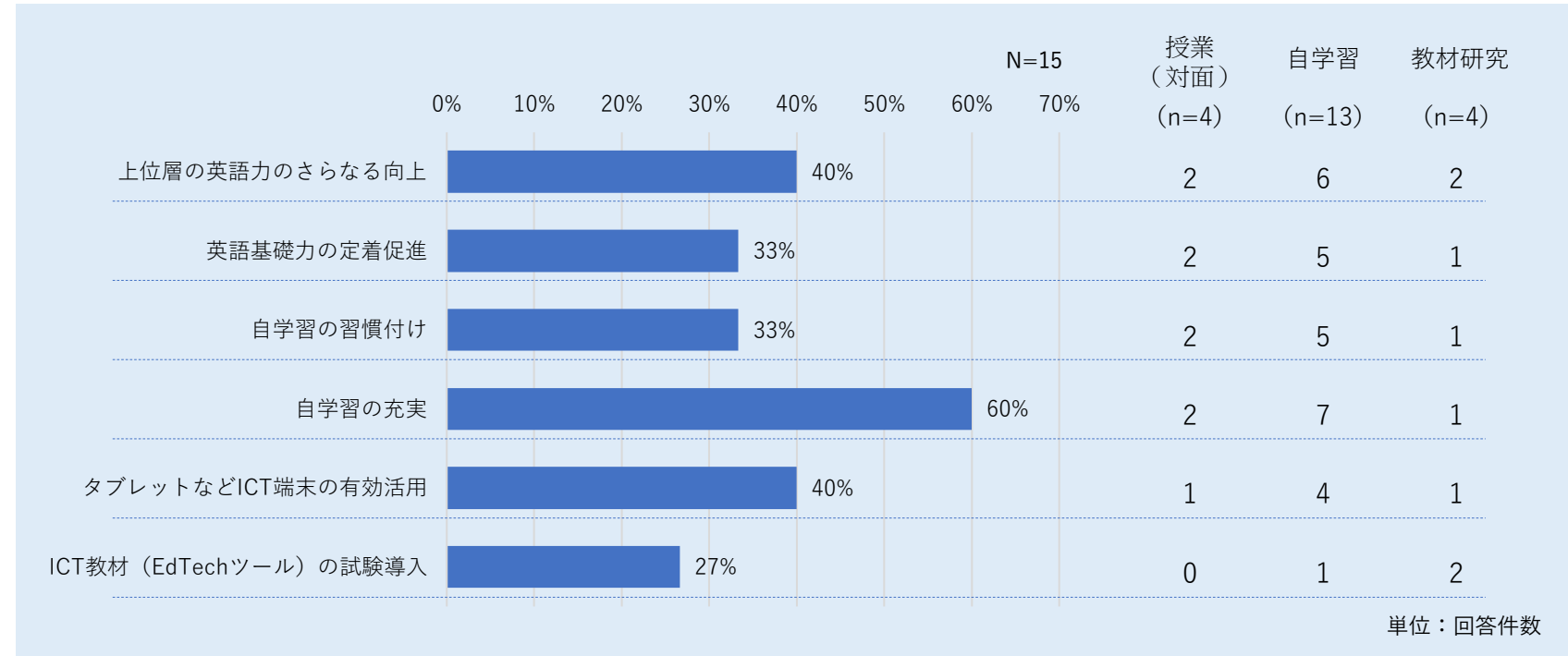
■ EdTechツールによる活用効果

申請校の先生方にご協力いただいた「e-Spire」活用に関するアンケートの結果

■活用シーン（複数選択可）



■活用目的（複数回答可）



- 活用シーンでは「自学習」と回答した申請校が最多の8割。アンケートの詳細や学習ログから他の申請校も自学習で利用されていることが分かり、これを含めると実質、自学習での利用率は86.7%。
- 活用目的では「自学習の充実」を挙げる申請校が最多。活用シーンごとに大きな傾向は見られないが、進学校でも「英語基礎力の定着促進」や「自学習の習慣付け」を挙げる割合が多い。

■ EdTechツールによる活用効果

申請校の先生方にご協力いただいた「e-Spire」活用に関するアンケートの結果（続き）

■活用ユニット（複数選択可）

N=13

※教材研究のみに使用し「授業や自学習で使用していない」と回答した2校を除く

	n数	VOCABULARY ユニット	READING ユニット	LISTENING ユニット	WRITING ユニット
授業（対面）活用の学校での 授業・課題・宿題での利用ユニット	4	2	3	0	2
		50.0%	75.0%	0.0%	50.0%
上記以外の学校での 課題・宿題での利用ユニット	9	4	5	5	4
		44.4%	55.6%	55.6%	44.4%
利用校全体での 授業・課題・宿題と、自学習を含めた 利用ユニット	13	12	10	8	9
		92.3%	76.9%	61.5%	69.2%

■ 授業（対面）での活用された申請校4校中3校がREADINGユニットを利用。

■ 活用シーンに関わらず最も利用率が高い学習ユニットは VOCABULARYユニットで92.3%。次いで READINGユニットが76.9%。

< 課題に対しての活用効果 > - 「GROW Academy」活用に関するアンケートより



探究が表面的な活動にとどまり活動がなかなか深まらない

- ・ 探究指導の参考になった／知見が深まった（公立高校、私立高校 ほか）
- ・ 概念を掘り下げることが可能になり、生徒自身が考えを持つきっかけになった（私立 中学校）
- ・ 対話的学びの際の組み合わせでより狙いに則した話し合いができた（私立 中学校）
- ・ これまでディベートやディスカッションの際に、その力以前に必要な考え方や見方をどのように教えたらいいのか分からなかったが、このような教材で生徒自ら感じ、気付くことができるのが効果的だと思った（私立 中学校）
- ・ データの取り扱い方法について、動画とワークを通じて具体的にイメージすることができた（公立 高校）



コンピテンシーを伸ばすための指導がイメージできない

- ・ 児童の主体性を向上させるための方法がイメージできた（公立 小学校）
- ・ 生徒の自己理解を深める方法が理解できた（公立 中学校）
- ・ これまで気付けなかった生徒の一面に気付けるようになった（私立 中学校）
- ・ 生徒に身に付けてほしい力は何か、どうすればその力が今よりも向上するのか、という視点で考える気持ちが強くなった（公立 高校）
- ・ 同僚がコンピテンシーの伸長の重要性に少しずつ気付き始めた（公立 高校）
- ・ 生徒や保護者と学業以外の資質・能力について話す機会が増えた（私立 高校）



引き続き学校行事等が制限される中で非認知能力が伸ばせない

- ・ 学校行事が通常の形態に戻りつつある中、他者と協調・協力してクラス企画を成立させる文化祭において非常に効果を発揮した（公立 高校）
- ・ コンピテンシーを発揮したり伸ばしたりする機会がコロナ禍で薄れていたが、動画を通じてコンピテンシーを伸ばせたことで、1年生でしかも初めての文化祭としてはクラス企画のクオリティが非常に高かった（公立 高校）
- ・ 探究活動の知識および技能の共有やチームでの目標の共有により、活動への意欲が高まった（公立 小学校）

<活用効果として挙げられたその他のポイント> - 「GROW Academy」活用に関するアンケートより



動画コンテンツ学習

- ・生徒たちも理解しやすかったようで非常に助かった。生徒たちが動画の中に出てきたフレーズを使おうとするようになった (私立 高校)
- ・普通の授業とは異なる教材を使用することにより、生徒は興味を持って取り組むことができた。視覚で導入することで関心を抱いて本題に入れたことから、通常授業と比較して集中できていた (公立 高校)
- ・動画コンテンツなど従来の紙教材以外の学習コンテンツに抵抗なく自然に取り組めるようになったのも目に見える効果の一つ (公立 高校)



授業準備

- ・教材準備の時間が減った (私立 高校)
- ・全教員が共有できるツールがあることが、指導への安心感につながった。また、授業準備の時間短縮になった (公立 小学校)
- ・外部のリソースを活用して、質の高い授業を行うことの意義を感じた (私立 中学校)



キャリア・入試

- ・生徒が自分の進路に真剣に向き合うようになった (私立 高校)
- ・生徒が自身の適性を自覚し、総合型選抜入試に向かう際の参考資料になった。自己の強み・弱みについて多少なりとも知ることができたのではないだろうか (公立 高校)



指導案
ワークシート
の活用

授業で活用した学校のうち95%が「GROW Academy」付属の指導案・ワークシートを活用したと回答。うち「生徒に合わせてアレンジした」と回答した学校は約5割

- ・指導案・ワークシートの2点があるだけでも教員の「使ってみよう」「見てみよう」という意欲につながっている。毎日忙しすぎて、一から指導案を立ててまで新しいものを使ってみようとするのは難しいので、大変ありがたかった (公立 中学校)

■ EdTechツールを活用した児童・生徒・教員のコメント感想等

<課題に対しての活用効果> - 「e-Spire」活用に関するアンケートより



上位層に適切な
負荷を掛けられず力を
伸ばし切れていない

- ・上位層への自由課題として活用し、効果的な自学習を促すことができた（公立 高校）
- ・低学年には単語学習を中心に全体に活用を促し、英検®受検者や大学入試を目指す生徒には個別で取り組ませた（公立 高校）
- ・特に意欲的な生徒の間で活発な活用が見受けられた。学校の授業の枠を超えて、難易度の高い問題に果敢にチャレンジする様子がダッシュボードから見て取れた（私立 高校）
- ・英語力含めた学力が高く教材の見極めがシビアな生徒が多いが、力が付くと実感したようで積極的に活用していた（私立 高校）
- ・読む速さを意識した演習ができ、特に東京大学の「内容一致問題」の対策につながった（私立 高校）



アウトプット機会を
増やすにも物理的に
時間が取れない

- ・一つの課題に対して複数回の書き直しができるため、初歩的なミス（スペルや語法など）を訂正することが少なくなった（公立 高校）
- ・WRITINGは授業内で何度も取り上げることができないが、自学習を含めたWRITINGユニットの活用によってアウトプット機会を増やすことができた（公立 高校）
- ・英語を書く機会だけでなくフィードバックの機会が増えたことが大きい（公立 高校）
- ・課題を増やせたことで日本語をそのまま英語に直しただけのエッセイが大幅に減少（私立 中学校）
- ・エッセイの基本的な表現の型を身に付け、フォーマットに当てはめて言いたいことを書ける生徒が増えた（私立 高校）



自学習を上手く活用
したいが自学が習慣化
していな生徒が多い

- ・特に上位層の生徒が夏休み期間に大量の問題に取り組んでいた（私立 高校）
- ・学期初めに予定表を配布して自学習で活用。模擬試験の結果が向上した生徒の多くが「e-Spire」で自学習が定着した生徒だった（公立 高校）
- ・長期休みの際の課題として出したところ、生徒のモチベーションを上げることができた。利用した生徒は、自学自習をできるようになった（公立 高校）
- ・機械学習が合う生徒にはとてもよかったと感じる。教員が予想していなかった生徒が前向きに取り組んでいたりしたため、こちらの声掛けや意図とは異なる形で学習する様子が見え、新たな気づきを得た（公立 高校）

<活用効果として挙げられたその他のポイント> - アンケート及びインタビューより抜粋



ダッシュボードで 取り組み状況を確認

- ・リスニング、リーディング、ライティングに自由に取り組ませたが、学習ログから生徒が自身で課題に感じるポイントが明確になった（公立 高校）
- ・リスニング、リーディング、ライティングの自学習の取り組みを1つのプラットフォームで一元管理できるので、各生徒の課題の把握や生徒・クラス間の比較がしやすかった（紙の教材だと主観による評価になりこの把握が難しい）（私立 中学校）
- ・自学で取り組ませたので管理はしなかったが、そのおかげで主体的に学ぶ生徒、頑張っている生徒、頑張ろうとしている生徒が分かった（公立 高校）
- ・観点別評価の「主体的に学習に取り組む態度」の評価に悩んでいたが、自学で取り組ませることで、主体的に学習に取り組む生徒、取り組もうとする生徒を把握することができた（公立 高校）



レベルに 合わせた 問題

- ・それぞれの生徒の英語力に合った演習問題を豊富に与えることができ、インプットを増やすことができた（公立 高校）
- ・高校1年生では中学から高校への橋渡しとなる適切な長さの英文に取り組ませることができた（私立 高校）



入試対策へ の言及

- ・速読トレーニング機能が良い。常にスピードを意識したリーディングが可能になり、効果的な入試対策にもなる（公立 高校）
- ・読む速さを意識したトレーニングができるREADINGユニットは、特に東京大学の「内容一致問題」の対策につながる（私立 高校）
- ・大学入試の問題集はレベル別になっていない（英文の難易度と設問の難易度がバラバラ）ので、少しずつ難易度が上がる演習問題に継続して取り組ませられるのがよい（私立 高校）



生徒からの 評価

- ・英語力含めた学力が高く教材の見極めがシビアな生徒が多いが、力が付くと実感したようで積極的に活用していた（私立 高校）
- ・特に上位層の生徒が夏休み期間に大量の問題に取り組んでいた（公立 高校）
- ・学習に応じてバッジがもらえる機能が好評だった。お正月のログイン限定でもらえるバッジを獲得するためお正月も学習したようです（私立 中学校）

アンケート及びインタビューより抜粋

先生の变化



- ・英語が苦手な生徒は自分はどこまではできて、何ができないのかが分からないことが多い。レベルが細かく分かれていてすこしずつ負荷が上がるので、生徒が学習に対するメタ認知ができるようになり指導やコーチングの負担が減った（私立 高校）
- ・ICT端末を用いた学習への興味・関心や生徒自身のデジタル環境によって「e-Spire」を用いた学習に多少の差はあったが、個々の最適レベルで英語学習を進められたため、結果、自学を中心に生徒の英語学習時間を増やすことができた（公立 高校）
- ・全ての生徒に効果的な負荷を掛けたリスニングの自学習用課題を出すことができた（私立 高校）
- ・アダプティブな教材でそれぞれの生徒の英語力に合った演習問題を豊富に与えることができ、英語のインプットを増やすことができた（公立 高校）

生徒の感想



- ・VOCABULARYは友達とランキングを競い合いながらゲーム感覚で楽しめた（私立 高校）
- ・英検[®]準1級を目指しているが、高いレベルの問題がたくさんあってよい対策になった（私立 高校）
- ・英語が苦手な自分はどこまではできて、何ができないのかが分からなかったが、レベルが細かく分かれ負荷が少しずつ上がるので、自分の課題や苦手なポイントがきちんと理解できた（公立 高校）
- ・常にスピードを意識したREADINGができるので、効果的な入試対策になるはず（公立 高校）

■ 成果の分析

活用効果で注目されている「コンピテンシー育成」については、「GROW Academy」での育成が可能であることが実証されている。

※ 「コンピテンシー育成」に関わる動画の利用率が高い (p.14参照)

※ 「EdTech導入補助金2021」、「未来の教室」実証事業などにて実証

つまり、今年度の「EdTech導入補助金」の活用によって得られた効果には「コンピテンシー育成」が含まれているといえる。

一方、活用効果のアンケートからは、ツールの活用を通じて校内の「コンピテンシー育成」への理解も促進されることが分かった。

※ 「同僚がコンピテンシーの伸長の重要性に少しずつ気づき始めた」 (p.15参照)

また、「探究型学習におけるお悩み」整理結果を見ると、「探究や資質・能力の評価」で多くの先生が課題感を持つことが分かった。

※ 次項、整理分類「評価・フィードバック」項目を参照



本効果報告レポートでは、「EdTech導入補助金」の効果検証を目的に申請校の一部の学校で実施した生徒のコンピテンシーと

その成長を定量評価する弊社のアセスメント・ツール「Ai GROW」を用い、

各申請校が「GROW Academy」で活用した動画（とその後のワーク）によるコンピテンシーの成長を

定量的にまとめ、「GROW Academy」の教育効果のエビデンスを示す。

合わせて、探究型学習やコンピテンシー育成の取り組みの効果を定量的に評価することが可能であることを示す。

アンケート「探究型学習におけるお悩み」の整理分類

共通認識

- 担当の教員だけが実施している
- 長期的な視点で教員の足並みを揃えること。情報だけでなく価値の共有が難しい
- 指導者の足並みを揃えられるようになるかどうか課題(理解はかなり進んだが)先生方の熱量に差がある
- 探究型学習に対する生徒・保護者・教員の理解を深めるためにどうするか
- 探究学習のプロセスと目的設定、意識合わせ
- 他の教員とのコンセンサス
授業のデザインや評価について統一した考えを持つ難しさ
- 評価や取り組みについて共通認識を持つのが難しい
- 即効性のあるものではないことを指導する側が認識できておらずじっくりと取り組めない

学校方針

- 方向性がはっきりと決まっていない
- 日常の教育活動を行う中、新たなプログラムを創るのに時間がかかる
- 育成目的やゴールが明確になっていない

カリキュラムの構築

- 課題設定・解決に向けた実践的かつ継続的な活動を検討・構築することが難しい
- 現在の探究をより充実させるための改善ポイントが分からない
- 一気通貫した探究のデザインを考えることが難しい
- テーマや課題の設定が難しい
- 学年で統一がよいのか担任などの企画で個々に進める方がよいのか
- 探究活動において地域との連携をどう行っていけばよいか

教科・進路指導との関連

- 親和性の高い教科とそうではない教科があるように捉えられる
- 教科と組み合わせながら系統的な学びにさせていくことが難しい
- 大学受験との擦り合わせ(特に一般選抜との兼ね合い)が難しい
- 教科指導にも探究的な要素を加える必要があると思うが、その方法が分からない

カリキュラムの実践

- 指示待ち思考になっている生徒をいかに主体性をもって探究型学習に取り組みさせていくか
- 子どもたちの探究の意欲を持続させるための働き掛け
- 生徒間の力の差が分かりづらく、ホームルームなどでの進捗に苦勞する
- 答えのない問いに向き合うことに慣れていないため、モチベーションが長く続かない
- コンテンツベースで学習が進みがち
- 生徒の状況に応じた指導内容の変更・工夫
- 実施するにあたっての指導のノウハウがないので、どのように進捗していくか悩んでいる
- 個の興味・関心に応じて探究活動をさせたいが、現実的にはその時間や余裕がまったくない
- 課題発見につながる資質・能力をどう高めていけるか

カリキュラムと資源

- カリキュラム設計や授業準備における負担感を感じている
- 教科の負担が大きく、探究に割く時間の確保に苦勞する
- 可処分時間の確保(カリキュラムの問題)
- 定期的には実施できず、継続した探究学習ができない
- 授業準備や教材研究時間の確保
- 担任の先生方の負担が増えてしまうこと
- 他の業務との兼ね合い
- 学校にある設備と与えられた予算が厳しい

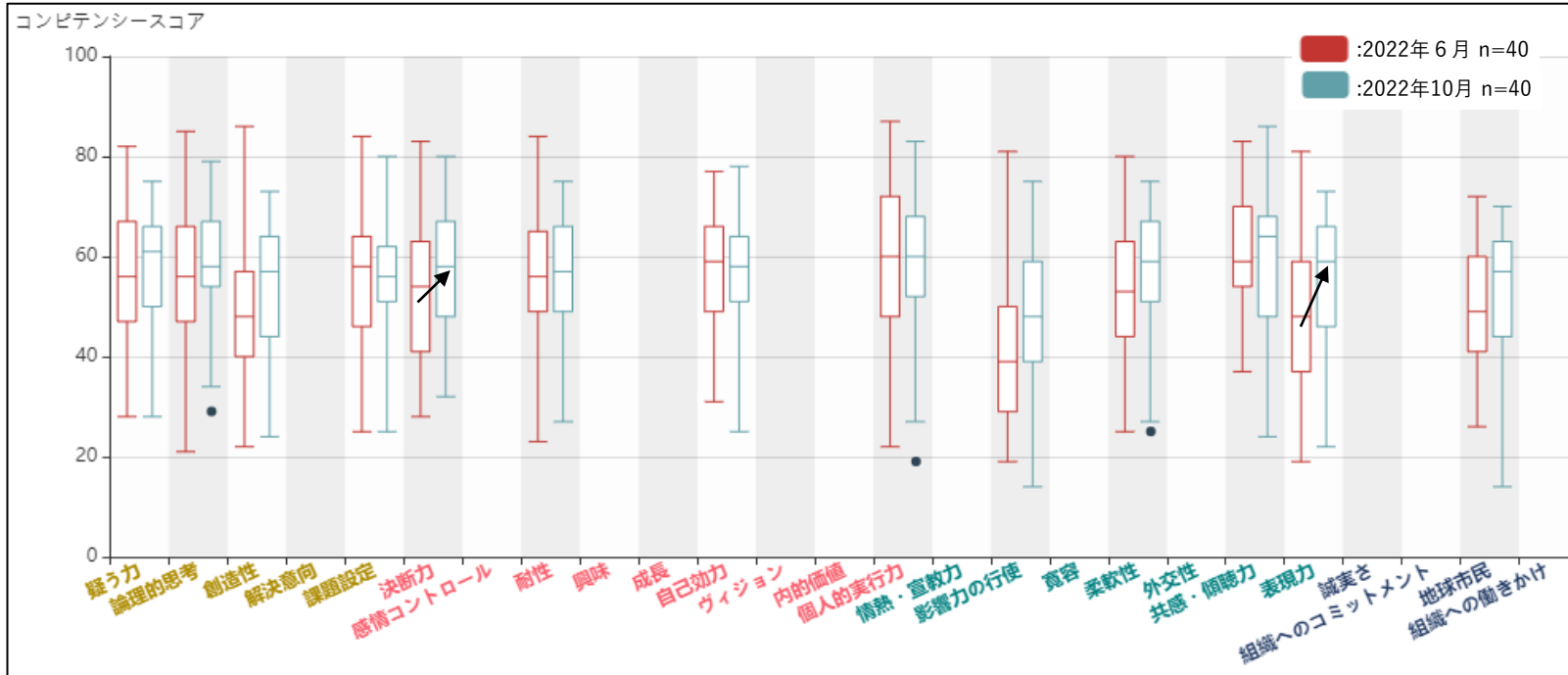
着目

評価・フィードバック

- 成果が見えづらい。負担のない効果測定はないか
- 情報収集後の分析力を測る指標がない
- 生徒の変容を記録したり共有したりフィードバックしたりするための枠組みが少ない
- 生徒の探究力に対する適正な評価方法
- 非認知能力が育めているか可視化することが難しい
- コンピテンシーに着眼し、コンピテンシーを評価することの難しさを感じている
- 探究の評価をどうするか。できる限り客観的な評価にするにはどうすればよいか

申請校A：高校1年生 (n=40)

特に育成したいと考えたコンピテンシー「決断力」「表現力」で明らかなプラス成長が認められた。



使用コンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
コンピテンシー理解の促進	気質
	360度分析
	コンピテンシー
キャリア教育 & 自己分析・探究	Who am I
課題解決	ゲーム理論

今後使用したいコンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
論理的思考 (思考力)	システム思考
決断力 (判断力)	期待値
	ディジジョンツリー
	相関・因果
課題設定	情報収集力
	デザインシンキング

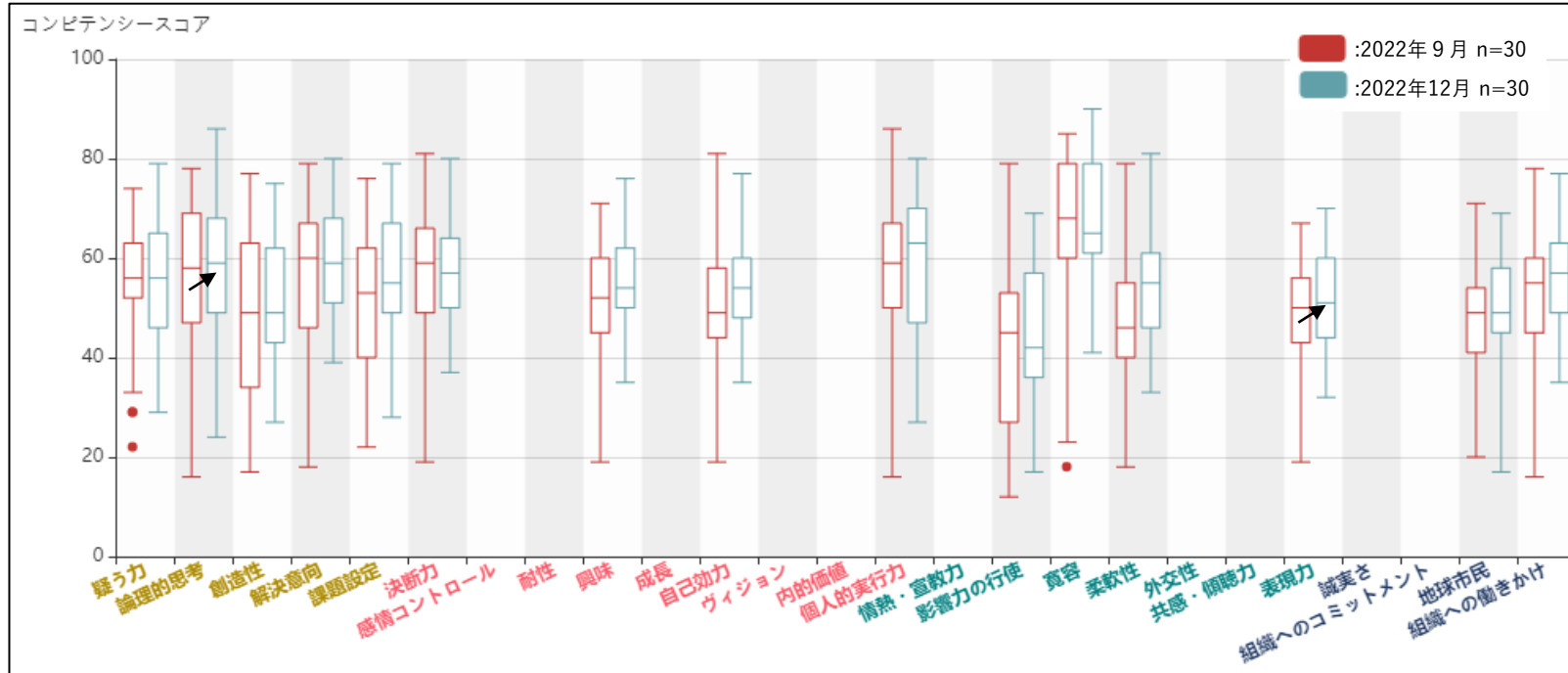
使用コンテンツに対応した育成コンピテンシー (○) そのうち、特に注目していたコンピテンシー (◎)																					
	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	
	疑う力	論理的思考	創造性	解決意向	課題設定	決断力	感情コントロール	耐性	興味	成長	自己効力	ビジョン	内的価値	個人的 実行力	情熱・ 宣教力	影響力 の行使	寛容	柔軟性	外交性	共感・ 傾聴力	◎ 表現力
最大値	75	79	73		80	80		75			78			83		75		75		86	73
中央値	61	58	57		56	58		57			58			60		48		59		64	59
最小値	28	34	24		25	32		27			25			27		14		27		24	22
平均	58	58	54		56	57		57			57			58		49		58		58	56
標準偏差	10	11	12		10	12		10			11			13		14		11		13	12
効果量	0.19	0.17	0.37		0.06	0.24		0.01			0.01			0.1		0.49		0.39		0.26	0.48

効果量	
0.01	非常に少ない
0.2	小
0.5	中
0.8	大
1.2	非常に大きい

分析方法：資質・能力を定量化する自社のアセスメント・ツール「Ai GROW」を使用。「GROW Academy」の活用前後で2度計測し、その間の生徒の資質・能力の変化を定量化した。

申請校B：高校1年生 (n=30)

特に育成したいと考えたコンピテンシー「論理的思考」「表現力」で明らかなプラス成長が認められた。



■ 使用コンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
表現力	五感表現
論理的思考 (思考力)	疑う力

■ 今後使用したいコンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
キャリア教育、自己分析・探究	バイアス
表現力	レトリック 交渉力
決断力 (判断力)	期待値

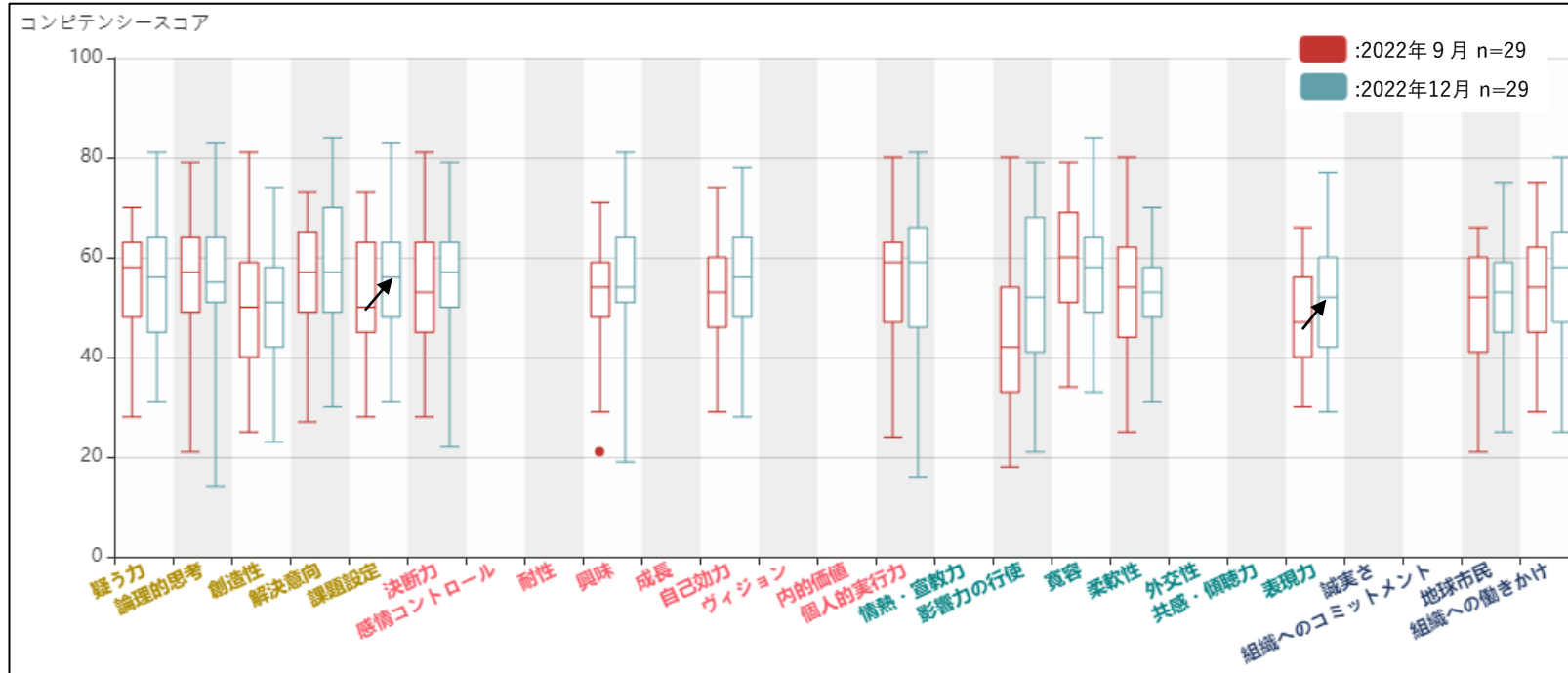
	使用コンテンツに対応した育成コンピテンシー (○)																								
	そのうち、特に注目していたコンピテンシー (◎)																								
	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○					
	疑う力	論理的思考	創造性	解決意向	課題設定	決断力	感情コントロール	耐性	興味	成長	自己効力	ビジョン	内的価値	個人的 実行力	情熱・ 宣教力	影響力 の行使	寛容	柔軟性	外交性	共感・ 傾聴力	◎ 表現力	誠実さ	組織への コミット	地球市民	組織への 働きかけ
最大値	79	86	75	80	79	80			76	77				80		69	90	81		70			69	77	
中央値	56	59	49	59	55	57			54	54				63		42	65	55		51			49	57	
最小値	29	24	27	39	28	37			35	35				27		17	41	33		32			17	35	
平均	56	59	50	59	55	56			55	54				60		45	69	55		51			50	56	
標準偏差	12	13	12	10	13	10			9	9				13		15	11	11		10			11	11	
効果量	0.06	0.23	0.14	0.16	0.22	0.09			0.33	0.21				0.25		0.15	0.22	0.46		0.2			0.21	0.33	

効果量	
0.01	非常に少ない
0.2	小
0.5	中
0.8	大
1.2	非常に大きい

分析方法：資質・能力を定量化する自社のアセスメント・ツール「Ai GROW」を使用。「GROW Academy」の活用前後で2度計測し、その間の生徒の資質・能力の変化を定量化した。

申請校C：高校3年生 (n=29)

特に育成したいと考えたコンピテンシー「課題設定」「表現力」で明らかなプラス成長が認められた。



■ 使用コンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
表現力	五感表現 レトリック
論理的思考 (思考力)	抽象化・具体化

■ 今後使用したいコンテンツ (動画)

育成目的	「GROW Academy」動画
キャリア教育、自己分析・探究	ビジョン
論理的思考 (思考力)	ブルーオーシャン戦略
表現力	交渉力
決断力 (判断力)	ディシジョンツリー

	使用コンテンツに対応した育成コンピテンシー (○)																								
	そのうち、特に注目していたコンピテンシー (◎)																								
	○	○		○	◎	○		◎	○		○	◎	○	○	○	○	◎	○	○	◎					
	疑う力	論理的思考	創造性	解決意向	課題設定	決断力	感情コントロール	耐性	興味	成長	自己効力	ビジョン	内的価値	個人的実行力	情熱・宣教	影響力の行使	寛容	柔軟性	外交性	共感・傾聴力	表現力	誠実さ	組織へのコミット	地球市民	組織への働きかけ
最大値	81	83	74	84	83	79			81		78			81		79	84	70			77			75	80
中央値	56	55	51	57	56	57			54		56			59		52	58	53			52			53	58
最小値	31	14	23	30	31	22			19		28			16		21	33	31			29			25	25
平均	56	55	50	59	56	56			55		55			56		52	58	52			51			52	55
標準偏差	13	14	14	14	13	13			13		12			15		17	13	9			11			13	13
効果量	0.13	0.03	0.03	0.3	0.31	0.18			0.31		0.25			0.03		0.45	0.11	0.03			0.27			0.28	0.22

効果量	
0.01	非常に少ない
0.2	小
0.5	中
0.8	大
1.2	非常に大きい

分析方法：資質・能力を定量化する自社のアセスメント・ツール「Ai GROW」を使用。「GROW Academy」の活用前後で2度計測し、その間の生徒の資質・能力の変化を定量化した。

<授業+自学>セットでの活用モデルの成功を確認した。

授業での活用によって英語教育の2つの大きな課題をバランス良く解決

上位層への適切な負荷

×

英語自学習の促進

アナログ型授業の置き換え
授業準備負担の軽減に貢献

授業で上手く活用された申請校では

- ・授業冒頭での帯活動としてのリーディング
- ・授業冒頭でのwpm設定機能を活用した速読演習
- ・授業内での課題を早く終えた生徒への追加演習

授業内のルーティン演習での成長が期待される。
また、レベルが細かく分かれた学習ツールであるため、
生徒の学習モチベーションも維持され
より有効な学びにつながる。

e-Spire

学校で活用しやすいUIで、
授業での取り扱いに◎

積極的な自学習の促進

全ての生徒の英語力にフィットする細かなレベル
設定と学習時間や解いた問題数などによってバッジを
獲得できる機能やランキング機能といった
ゲーミフィケーション効果により、達成可能な短中期的
な目標設定が可能となり、自学習が促進される。

副次的な自学習への貢献

機能相性の合う生徒はレベルを問わず自学活用が
促進される。ポイントは生徒のレベルにマッチして
いることで、「e-Spire」の対応レベルの広さと
問題数の豊富さが役立っている。

■ 「GROW Academy」に対する要望3点

1. テーマ・課題のバリエーション増

- ・ 問い立てが難しいと感じる生徒も先生も多いので、課題設定力を高めるための動画がもっと増やしていただけたらうれしい。身近な不平や不満、違和感に大きなヒントが隠されていることが多いので、それらとからめて活用できるとなるとよい（公立 高校）
- ・ 実社会の課題をテーマに掘り下げられるコンテンツがあるとうれしいです（公立 高校）
- ・ 各項目の学習内容が単発で終わらず、ふくらませていけるアイデアも提案していただけたらありがたい（公立 中学校）
- ・ 探究活動に必要な資質・能力は年々変化していくと感じる。基本・標準・応用というように、生徒の変容に合わせてコンテンツの負荷が変わると生徒の成長によりつながると感じる（公立 高校）

2. 難易度・レベルの調整

- ・ 内容や表現が小学生には少し難しいが小学生にも必要な内容だと思う。平易な表現のものがあればもっと活用したい（公立 小学校）
- ・ 生徒に授業のゴール（伸ばす能力）を明確に理解させるため、実施の前段階で用語の説明がもう少しあると良いと思った（公立 高校）
- ・ 10分程度で完結する指導案もあると朝のホームルームでも使いやすく、継続的にコンピテンシーへの意識付けができる（私立 高校）

3. 生徒の相談窓口の設置

- ・ 生徒自身が「GROW Academy」に対して直接アプローチし、自身の伸ばしたいコンピテンシーに対する心構えや相談などが気軽にできるスラックのようなスキームがあればうれしい（公立 高校）



これらの声を受け、令和5年度に向けてSTEAM探究プログラムを強化。
その他の要望に関しては、優先順位を付けて対応検討を行う。

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

今年度の「EdTech導入補助金」事業で解決したい課題のうち、「上位層への適切な負荷」と「英語自学習の促進」については前項までの通り明確な成果が確認できた一方、「OUTPUT時間の確保」については課題が残る。



■ 課題 1：活用校を増やす

申請校15校のうち、授業でWRITINGユニットを活用された学校は6校にとどまり、「たくさんの英作文課題に取り組みさせることができた」という声はいただけたものの、本課題の具体的解決に向けた実証データを得られなかった。

■ 課題 2：AI に対する過度な期待

現状のWRITING添削の代替としてご利用いただくことで添削・採点業務の負担軽減になる一方、「e-Spire」導入以前に比べて英作文の提出が増えたことで提出された英作文の確認時間が増加。「生徒の課題別に提出された英作文を自動で振り分けられる機能がほしい」などといった期待がある。

■ AI機能の評価はバラつく

- ↑ 初歩的なミス（スペルや語法など）を訂正することが少なくなった (公立 高校)
- ↓ 英作文の論理構成（根拠の弱さなど）についてもAIが修正提案してくれると思った (公立 高校)

- ▶ AIの評価別に提出英作文をまとめ表示する。
- ▶ 事前指導動画を作成。受講画面で視聴可能にする。

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

■ 「e-Spire」に対する要望

1. WRITINGユニットについて





- ・エッセイ・ライティングの自動採点のさらなる精度向上（「e-Spire」だけで英作文指導を完結できるように）（私立 高校）
- ・完全なAI自動添削が導入されると良い（教員はそのチェックだけすればよい）（公立 高校）
- ・提出されたエッセイ課題は教師の確認がなくてもどんどん進めるようにしてほしい（公立 高校）

2. 学習ログについて

- ・取り組んだ時間や解いた問題数だけでなく、各演習問題のスコアとエラーをまとめて一括でチェックできるとうれしい（公立 高校）
- ・直近でログイン回数や解いた問題数の多い生徒、自学での取り組みが明らかに向上した生徒をすぐ確認できるとよい（私立 高校）

3. 其他のご要望

- ・READINGユニットは読む速さを意識させることができ優れているが、音読ができる音声も収録されているとなおよい（公立 高校）
- ・もう少しグループで取り組めるような課題もあると、自学だけでなく授業でも使いやすくなる（公立 高校）
- ・学校によって異なると思うが、本校ではブラウザで学習するより、学習アプリの方が使いやすい（公立 高校）

	VOCABULARY
	READING
	LISTENING
	WRITING

これらの声を受け、令和5年度に向けてダッシュボード機能と音声トレーニング素材の拡充を行う。
 その他の要望に関しては、優先順位を付けて対応検討を行う。

■ 「EdTech導入補助金」事業、経済産業省や国の教育支援施策に対する要望

1. 導入検討を後押し的一方、単年の試用期間では有効な検討に不足＜助走のための十分な期間の支援＞を希望する声が多い

- ・これからの社会で活躍する人材育成という観点で継続的に補助金を使用させてもらいたいです（公立 高校）
- ・単年度実施ではなかなか検証しづらいので、2年連続での助成か次年度に導入する際には、必要経費の一部でも補助いただけると導入しやすい（公立 高校）
- ・実際に使ってみないと学校に導入して良いものかどうかの判断ができないため、これからもこうした補助制度は維持してもらいたい（私立 高校）
- ・進路多様校では保護者の経済的な余力もあまりなく、ペアレントクラシーが強く表れている状況でもあるため、今後も経済的・人的支援があると助かる（公立 高校）

2. 補助金制度とその内容の周知に関する事項

- ・経済産業省のみでなく文部科学省などの各省庁が協働し、それぞれの教育に対する政策を橋渡しするような支援があるとありがたいです（私立 高校）
- ・どんな教材や補助金の活用方法があるのかリスト化してもっと見やすくしてほしい（私立 高校）
- ・国や教育委員会にはこのような制度があることを学校側にもっと周知をしてほしい（公立 高校）

先生の謝辞



- ・補助金をいただいたおかげで充実した新たな学習を展開することができた。また、教育委員会からも視察に来ていただき、有用性を伝えることができた（公立 高校）
- ・補助金を活用させていただくことで、このような効果が期待できる事業を体験できたことは非常にありがたい。このような教育支援施策が広がり、選択肢が増えることを切望している（公立 高校）
- ・とても良い制度だと感じています。できるだけ今後も継続していただきたいと思っております（公立 高校）

本補助事業の予算化にご尽力くださった経済産業省の皆さま、事業期間中ご支援くださった事務局ご担当者の皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。最後に、数多くあるEdTechツールの中から弊社の「GROW Academy」と「e-Spire」をお選びいただき、本補助事業にご協力くださった全申請校の先生方とその先にいらっしゃる児童・生徒の皆さまに改めて心から御礼申し上げます（IGS株式会社 教育事業部）

■ 会社概要

人を幸せにする評価と教育で、幸せを作る人、をつくる。



社名	Institution for a Global Society 株式会社	従業員数	48名 (2022年9月末日現在)
資本金	390百万円 (2022年9月末日現在)	売上高	720百万円
代表	福原正大 (代表取締役社長)	売上総利益	570百万円
オフィス	東京都渋谷区恵比寿南1-11-2 4階	経常利益	21百万円



代表取締役 福原 正大
Masahiro FUKUHARA

Services

Ai GROW
探究力測定

GROW Academy グローアカデミー
GROW360

e-Spire
Dx GROW

慶應義塾大学卒業後、東京銀行（現：三菱UFJ銀行）に入行。フランスのビジネススクールINSEAD（欧州経営大学院）でMBA、グランゼコールHEC（パリ）で国際金融の修士号を最優秀賞で取得。筑波大学で博士号取得。2000年世界最大の資産運用会社パークレイズ・グローバル・インベスターズ入社。35歳にして最年少マネージングダイレクター、日本法人取締役に就任。2010年に、「人を幸せにする評価で、幸せをつくる人をつくる」ことをビジョンにIGSを設立。主な著書に『ハーバード、オックスフォード…世界のトップスクールが実践する考える力の磨き方』（大和書房）、『AI×ビッグデータが「人事」を変える』（朝日新聞出版社）、『日本企業のポテンシャルを解き放つ—DX×3P経営』（英治出版、2022年1月11日刊行）など著書多数。慶應義塾大学経済学部特任教授を兼任。米日財団 Scott M. Johnson Fellow。

お問い合わせ・資料請求、各EdTechサービスの詳細

☎ 03-6447-7151 (平日 10:00~18:00)

✉ edtech@i-globalsociety.com



GROW Academy ▶



e-Spire ▶



Ai GROW ▶